

5 建築空間を植物で演出

デザインから維持管理まで。建築家とのコラボレーション



ザ・プリンスギャラリー 東京紀尾井町(ホテル)

壁面にあるのは本物の苔を加工したもので、ドライ化して着色したものをガラス張りの器の中に入れ込んでいる。苔の肩が飛び出したりしないように器もデザインしてインテリアとしている。

山王台病院アネックス(茨城県石岡市)

病院のコンセプトである“癒し”を表現したエントランスガーデン。「水」「緑」「光」をテーマに、和の植物でくつろぎの空間をつくった。



渋谷モディ 植物と建物が一体になったデザイン。ベストな状態を保つため本物の植物に人工のものを付け加えている。



空間のランニングをコーディネートする

私は設計者の方々と組んで、植物を建築空間に取り入れる仕事をしています。依頼の多くが設計事務所からで、プランニングから施工監理、その後のメンテナンスまで、いろいろな場面に対応しています。植物を扱う上で重要なのは、枯らさないで維持すること。それには専門のノウハウが必要なため、設計者の方々と我々のような植物を専門とする者が組んで仕事をやるスタイルが求められたのだと思います。当初はレストランやホテル、流行を発信する商業施設などで植物を扱い始めたのですが、今は集合住宅やオフィスでも積極的に植物を取り入れています。

仕事を始めた30数年前は、新しい建物が次々とできる一方で、その後をどう維持していくかという問題に、多くの現場が直面していました。空間をつくって終わりではなく、そこでイベントを開催するなど、ランニング(運用)を考えていくコーディネーターが必要だと考えるようになりました。そこで、植物

を使って空間を装飾することを考え、仕事にしました。従って、ある空間を一緒につくり上げたら、その空間が存続しお客様からノーと言われない限り、どこまでも最初のコンセプトを生かした空間演出を継続していきます。

また、現場の意見を良く聞き、現場に合わせて定期的に維持管理に入り、入れ替えした植物を温室でメンテナンスしながら、新しい材料も入れたりして、良い状態が保てるようにします。

また、クリスマスや開店記念などのイベントの際には、おもてなしを表現する特別な演出を入れていきます。例えば、レストランのクリスマスイベントでは、メッセージを入れたガラスの器に小さなモミの木を入れてお客様にプレゼントしました。お店の宣伝として残っていくような演出を考えてトータルで提供していく。そんなことをやっています。

大事なのは、こういう空間であったなら何が良いのかということを見極めて提案することです。使用する植物がその環境で保てるのか、維持管理の手間やコストも考え合わせ、ドライや人工の素材も上手く使って空間を演出していきます。

東 淳一さん

インテリアプランナー、庭園管理士、
一級造園施工管理技士
株式会社ランドスケープハウス 取締役会長



《経歴》

1947年生まれ。成蹊大学卒業。1983年、株式会社ランドスケープハウス設立。グリーンプランニング(室内緑化、造園計画・施工、プランター製造販売、植物リース・メンテナンス)とインテリアスタイリングを柱に、植物を使った空間演出家として活躍中。

《実績》

- ・舞浜ホテル クラブリゾート
- ・大阪マリオット都ホテル
- ・ヒルトン小田原
- ・ロンハーマン各店舗
- ・ナイキラボ
- ・東急グランクレールシリーズ
- ・明治・法政・成蹊大学などの学校

ほか多数

《受賞歴》

- ・信楽陶器祭 準グランプリ(1987)
- ・インテリアプランナー協会IPEC テーマA賞(2002)
- ・インテリアプランナー協会IPEC 奨励賞(2004)

ほか多数

植物が空間の質を変える

五感に訴える植物の存在は、インテリアにとってますます重要なものになっていくでしょう。例えば、窓のないコンピュータールームで、休憩する場所に季節の植物があるとすごくいい。秋ならススキ、冬なら赤い実をつけた南天の鉢植えを置くなど、季節に合わせて入れ替えれば、一年を通して空間の質を上げていけます。

プランニングに携わる方々には、植物演出の効果を知っていただき、積極的に導入を提案してほしいと思います。計画の段階から携わることができれば、植物の提案だけでなく、こちらからインテリアのスタイリングを提案することもでき、効果的なコラボレーションが生まれると思います。